

【研究主題】一人一台端末のICTを活用した授業づくり

～「個別最適な学び」を実現するために～

1 なぜいま、「個別最適な学びの実現」か

（1）自立した学びの実現（資料①）

すべての子どもたちの可能性を引き出すために、学力の確実な定着と、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びを実現するために、個別最適な学びの実現をめざす。

（2）個別最適な学びと協働的な学習（資料②）

コロナ禍でオンライン学習が広がり、個で学習する形が普及してきた。しかし人と人とが学び合うことも大切。個別最適な学びと、協働的な学びは、いったりきたりすることが必要。

2 授業研究の中で意識していただきたいこと

（1）ふりかえりの工夫（資料③）

子ども自身が、一時間の授業で何を学んだのかが分かることができる。じぶんのつまづきにも気づくことができる。教師が子ども一人ひとりの学びの様子を評価する。

（2）ICTの活用

ICTはあくまでもツール。そこでICTを使った意図がわかる。教科のねらいや本質を捉えて、どこでどのように使うことがより子どもたちにとって効果的か。

3 個別最適化学習の例

（1）ノートづくりで個別最適化学習（資料④）

ノート見開き1ページの中に、次への課題も入れる。子ども自身が、自分の学びが自分でわかることが大事。高学年になるにつれて、そのことが意識できるように。

（2）次時へつながっていく授業のかたち（資料⑤）

課題提示から始まる授業構成とはちがって、個の学びから始まり、協働的な学びを通して結論→また新たな課題が生まれて、個の学びへとつながる。子どもの学びが連続する。

4 やまぐち総合教育支援センター調査研究協力について

（1）研究テーマ

「山口県が開発した学習コンテンツのデジタル化による「個別最適な学習」と教育データの活用に関する研究」

（2）研究の内容

従来紙ベースで取り組ませていたやまぐちっ子学習プリントをデジタル化し、一人1台端末上で取り組ませる。デジタル化することで得られる利点を生かした活用方法や、得ら

令和4年度 第1回校内研修会

令和4年（2022年）4月27日

れた教育データの活用方法について研究をし、個別最適な学習を促進できるようにする。

5 研修組織と今後の研修計画など（資料⑥、⑦、⑧）

R4年度第 1 回校内研修

(資料①)

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実（イメージ）

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

主体的・対話的で深い学び

学習指導要領 総則 第3 教育課程の実施と学習評価

学習指導要領 総則 第4 児童(生徒)の発達の支援

授業改善

資質・能力の育成

一体的に
充実

授業外の
学習の改善

学習内容の確実な定着

自ら学習を調整

必要に応じた
重点的な指導、
指導方法等の工夫

各々の特性・学習
進度・学習到達度等

指導の個別化

個別最適な学び（教師視点では「個に応じた指導」）

修得主義 個々人の学習状況に応じて学習内容を提供・一定の期間における個々人の学習の状況・成果を重視
の考え方を生かす

学習を深め、広げる

自ら学習を調整

一人一人に
応じた学習活動・
学習課題の提供

各々の興味・関心・
キャリア形成の方向性等

学習の個性化

異なる考え方が組み合わせり
よりよい学びを生み出す



多様な
他者と協働

一人一人の
よい点・可能性

協働的な学び

クラスメイト

異学年・他校の子供

地域の人

専門家

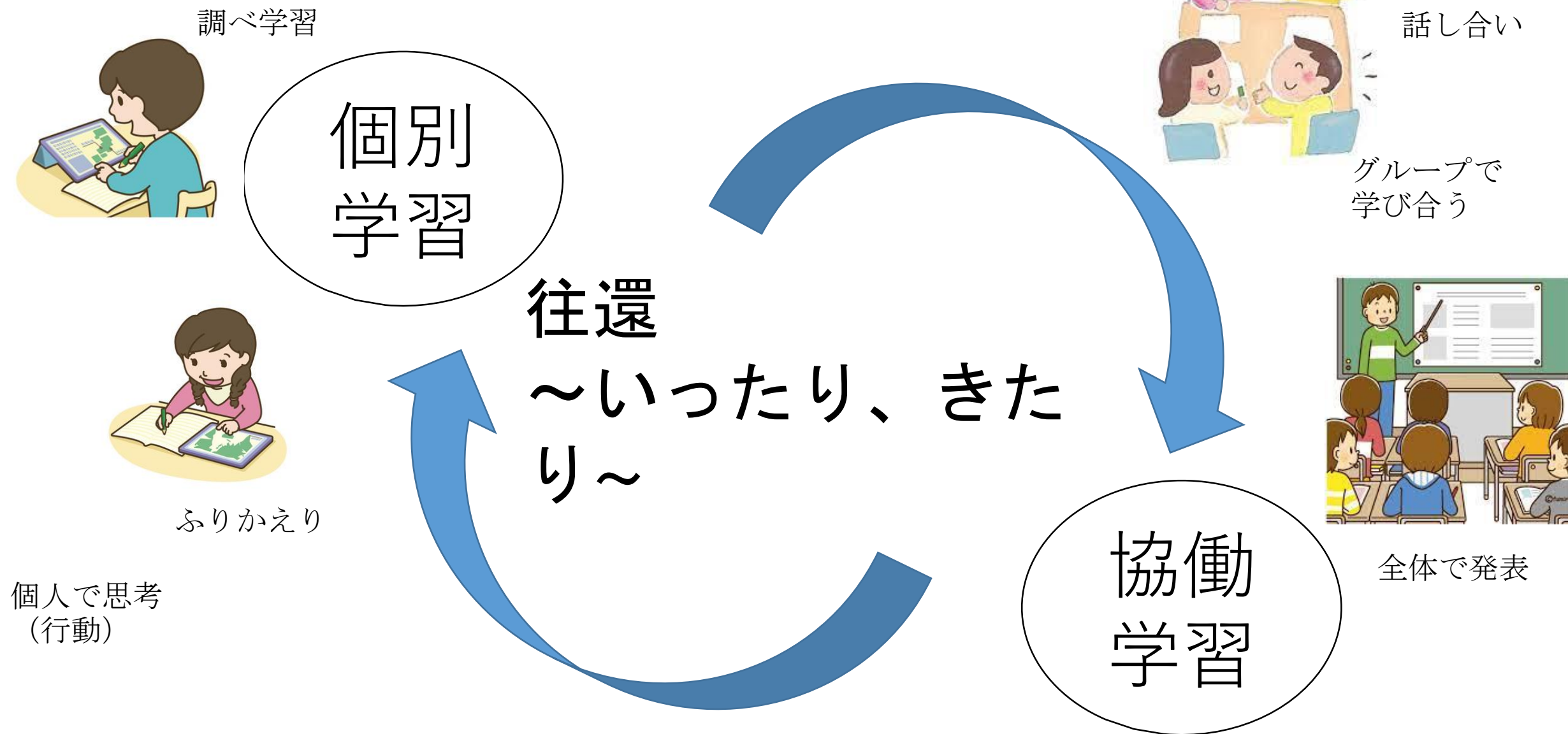
等

履修主義
の考え方を生かす

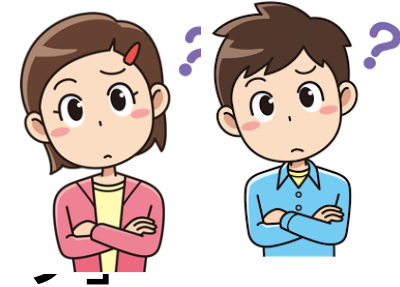
これからの学校には……一人一人の児童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

平成29,30年改訂
学習指導要領 前文

(資料②) 個別最適な学びと協働的な学習



(資料③) ふりかえりの工夫 (例)



○「このことばをつかってふりかえりをしてみし

→教師が提示したキーワードを使ってふりかえりを表すことで、その時間の内容を振り返って大切なことは何だったのかを振り返ることができる。

○「分かったことを、かじょう書きにしてみよう」

→箇条書きにすることで、大切なことを短い文章や言葉で表すために、文の構成や必要な言葉を取捨選択することを考える。論理的に表現すること、考えて書く習慣づけになる。

○「調べてみたいことや、もっとかんがえてみたいことをふりかえりに入れてみよう」

→課題を考えることで、次時への意欲につながる。また、学びを自分事として考えて、学ぶ習慣を身につけることの一步にする。



(資料③) ふりかえりのかたち (例) ～～形態はさまざま～

○ノートに書く。



○ロイロノートで文字入力する。



○ロイロノートで対象を写真にとり、音声入力す

など・・・



(資料④) ～ノートづくりで個別最適化学習～

ノート見開き 1P



【課題・疑問】○○は、▲▲なのだろうか？

【結果】・○○は、△△だから●●である。
※短文で書くこと

【調べたこと（個別）】

- ※自分で調べてまとめてもいい（教科書）
- ※自分で調べてもいい（ネット、書籍）
- ※人に聞いてもいい（インタビュー）
- ※授業中の板書でもいい

【話し合ったこと（協働）】

※話し合いのテーマや目的を明確にする

【分かったこと（箇条書き）】

・
・

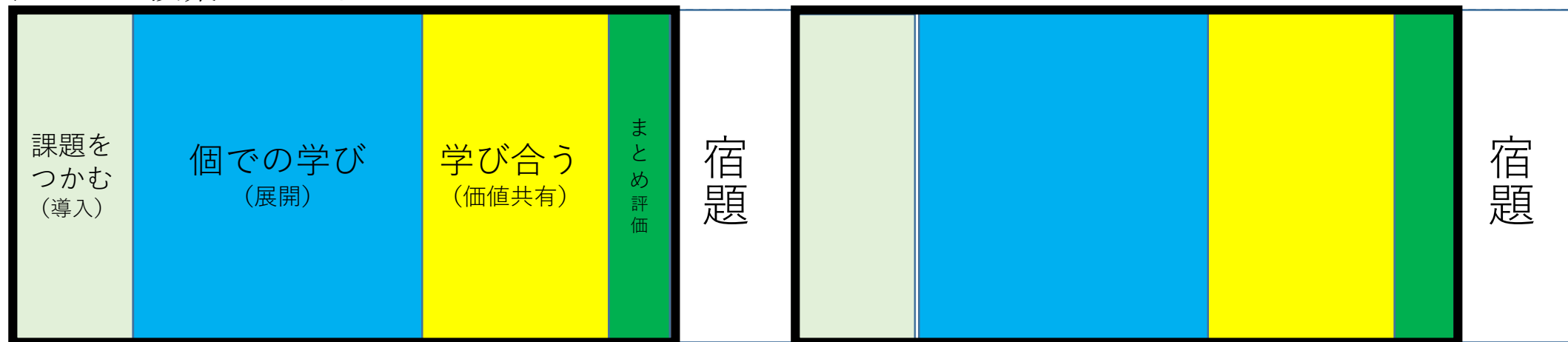
【次の疑問・課題】

【次に調べる手立て】

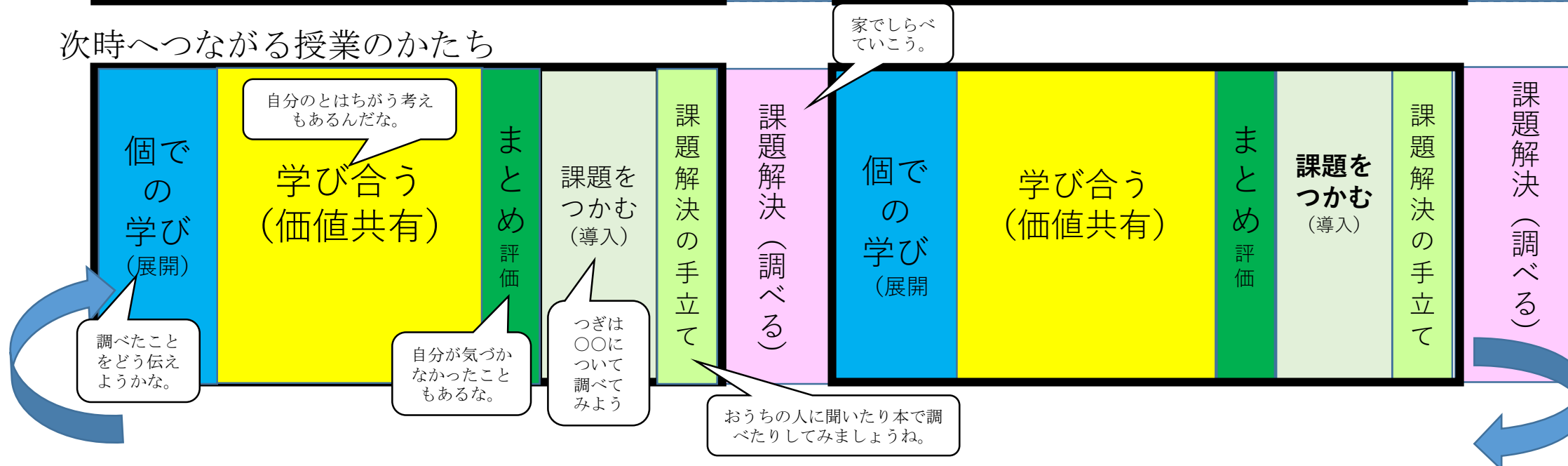
(資料⑤) 個別最適化学習の例②

～次時へつながっていく授業のかたち～

これまでの授業のかたち



次時へつながる授業のかたち



（資料⑥）

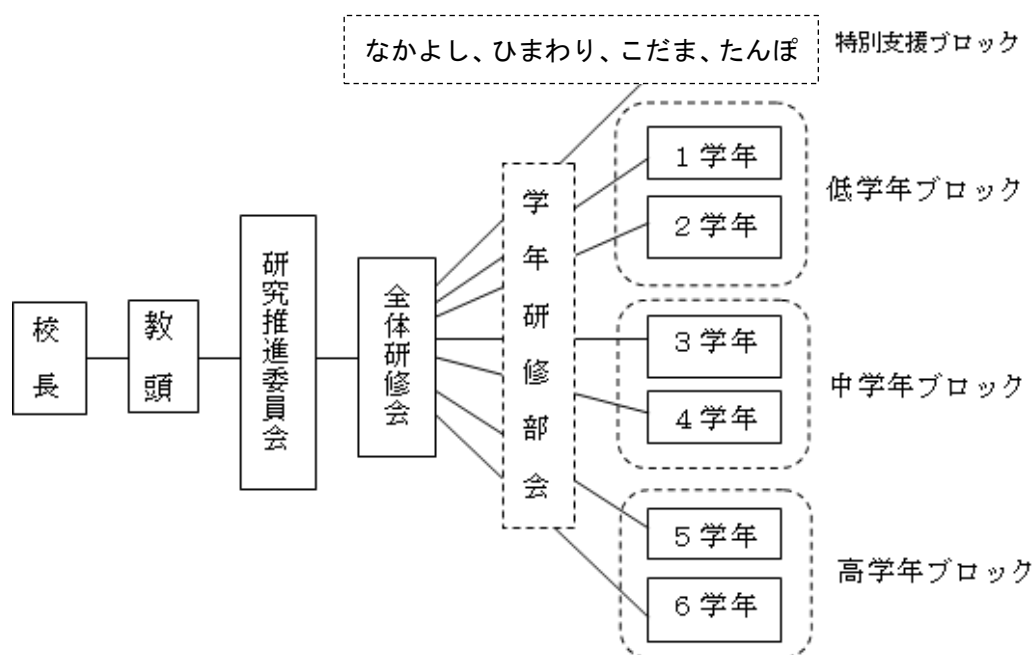
○ 研究方法

- ・ 各ブロックで児童の実態を基に目指す児童像を設定し、授業研究・実践検証を行う。
（ユニット型研修）
- ・ 教師全員が授業を開き（年1回以上の授業公開）、お互いに参観し合うことによって学び合う。
- ・ 公開授業研究会（年3回、6月22日・9月14日・11月9日）
→授業公開（5校時）ののちに研究協議を行い、講師より指導を受ける。
- ・ 自主公開授業研究会
→授業公開ののちに研究協議をユニット型行い、講師（学力向上推進リーダー）より指導を受ける。日程は各ユニットで決定する。（別紙参照 決定後担当へ提出）
- ・ 指導案形式（別紙参照）2022 研修 → 指導案 内にあります。
- ・ 指導案作成し各ユニットで協議・授業説明後1週間前までに講師へ送る。全職員に配布。
- ・ 授業後、1週間を目安にふりかえりを記入して全職員に配布。
- ・ 個人の研修ファイルに綴じていくことで、研究集録にかえる。

○ 研究組織

研究推進委員会は、校長、教頭、教務主任、研修主任、各ブロック1名の研究推進委員で構成する。研究推進委員会において、研修の方法の立案と提案、授業研究会の運営、授業評価に基づく研究の成果と課題のまとめを行う。ブロック構成は以下のとおり。

- ・ 低学年 B（担任、栄養教諭）・中学年 B（担任、養護教諭）・高学年 B（担任、教務主任）



○ 今後の研修計画

日時	研修内容
4月27日（水）15時～	今年度の校内研修について
6月15日（水） 15時45分～16時30分	調査研究内容について（やまぐち総合教育支援センターより） 第1回公開授業研究会授業説明（5年1組 名和田先生より）
6月22日（水）5校時～	第1回公開授業研究会（5年1組）
7月22日（金）午前中	夏季研修 「個別最適な学びとこれからのICT活用について」（案）
9月14日（水）5校時～	第2回公開授業研究会（4年1組）
11月9日（水）5校時～	第3回公開授業研究会（1年2組）
12月21日（水）15時～	実践・研修の振り返り
3月1日（水）15時～	一年間の振り返り

※各ユニットの自主公開授業研究会は日程決定後にお知らせします。

第○学年 ○組 ○○科 学習指導案

令和○年 ○月○日（ ）○校時

指導者 ○ ○ ○ ○

場 所 ○ 年 ○ 組 教室

1 単元・題材名

2 授業の構想

（授業者の授業設定の意図、思いを書く。）

3 ねらい

・・・・・・・・・・・・・できる。（児童の立場で書く。）

4 展開 （本時 ○／△）

学習活動・学習内容	教師の働きかけ	評価
1 ・・・・・・・・する。	○ ・・・・・・・・する（させる）ことで、・・・ できるようにする。	
2	※ 手立ては、課題がうまくできない子どもを想定して具体的に書く。 ※ 「～を工夫する」は使わない。 どう工夫するのかを具体的に書く。	・～している。 ・～しようとしている。 ・～ができる。
3		※ 学習のねらいについての評価項目を書く。
4 ふりかえり		

< 板書計画 >

A large empty rectangular box with a double black border, intended for drawing the blackboard plan.

座席表(※授業後考察)

琴芝小学校ICT活用 学びの系統表(案)～クラウド(ネット)に接続することで、情報を可視化し、整理・活用し、振り返ることで、新たな個別の学びを創造することができる～

	表現・コミュニケーション				I C T 手立て①	I C T 手立て②	I C T 手立て③	探求学習 反転学習
学年	話す	聞く	書く	読む	iPad (カメラ)	ロイロノート (カード・協働)	タブレットP C (キーボード)	情報活用
1年生	主語・述語を意識して話す (自分)	相手の思いを意識して聞く	学んだことや感想を文型に即 して書くことができる	言葉に興味をもち、「 」 や「 」 に 気を付けながら読むことがで きる。	対象となる人や物を録画し、再生 することで振り返る	紙に書いた文字や絵・図、対象物 を写真に撮ってまとめることが できる。		必要な情報をカメラで撮って 振り返る
2年生	主語・述語を意識して話す (自分・他者)	話し手のめあてに沿って聞 き、評価できる。	学んだことや振り返りをたく さん書くことができる	言葉に関心をもち、意味を考えな がら読むことができる。	話している人を録画し、再生 することで振り返る	学んだことをカードに手書き 文字で記入したり、カードを 色で分類して分かりやすく説 明できる。		カードに学習したことを記入 する(手書き・ソフトウェア キーボード等)
3年生	内容をまとめて話す(要旨)	めあてに応じた聴き方をし、 根拠をもって答える	学んだことや振り返りをキー ワードを入れて書くことがで きる	理由や根拠を考えながら読む ことができる。	活動している相手を録画し、 再生することで振り返る(各 教科)	学んだことをカードに文字で 記入できる。	ローマ字打ちに慣れる。 キータイピングソフトによる練習。 1分間に10文字が書けるよう になる。	体験学習(カメラや文字入 力)
4年生	内容を順序よく分かりやすく 伝える(箇条書き)	相手の話したい内容を要約し ながら聞くことができる。	学んだことや振り返りを箇条 書きで書くことができる。	主語と述語に気をつけなが ら、複数の言葉を関連づけな がら読むことができる。	活動している相手を録画し、再生 することで振り返る。(各教科)	友達のカードに自分の学んだ ことをつなげて関連づけて説 明できる。	キータイピングソフトによる 練習。1分間に20文字が書 けるようになる。	調べ学習(インターネット利 用・分かったこと等の文字入 力)
5年生	他の内容と関連づけながら話 す(比較・分類)	相手の話す内容と自分の考え を比べながら聞くことがで きる。	学んだことや振り返りを要点 に気をつけて短い文章で書く ことができる。	要点を考えながら読むことが できる。		グループで協力しながら、 カードを使ってプレゼン資料 を作ることができる。	互いに筆談ができるようになる。 自分の思いやまとめ等が書ける ようになる。5分間で100文字。	探求学習(学校・地域) 反転学習
6年生	内容を図や写真等を活用しな がら伝える	相手の話す内容を提示された 資料等と関連づけて聞き、要 点を述べることができる。	学んだことや振り返りを相手 に応じて分かりやすく書くこ とができる。	多様な視点で読むことができる。	作品など必要なものを録画し、振 り返る。	インターネットや他人の情報 を参照しながら自分の考えを まとめ、説明することができ る。	図や写真を活用しながら短い 説明が書けるようになる。2 00字程度の文が10分以内 に書けるようになる。	探求学習(地域・世界) 反転学習
NEXT	聞き手を意識して、効果的に 説得する	相手の話す内容を理解し、他 の人に分かりやすく説明でき る。	さまざまなメディアを活用し て、学んだことから、自分の 主張をのべることができる。	多様な立場で読むことを通し て、自己の読みを確かにす る。		個人情報や著作権に気をつけ ながら、さまざまなメディア を駆使して伝えることができ る。	他人の文章に自分の意見や考 えを付け加えて批評的文章が 書ける。	情報発信

	総合的な学習の時間		「美化ピカ大作戦」㊸(ロイロノートの活用) ・ごみの処理にかかわる対策や、事業について調べる。 ・事業について調べ、ロイロノートにまとめ、環境について発表を行う。		「ちょこっとハッピープログラム」㊹ (mBotの活用) ・車いすやアイマスクの体験を通して、宇部市の施設をユニバーサルデザインの視点で調べる。(上下水道について) ・障がい者、高齢者など、モノを使う側の視点に立って、「生活を豊かにしてくれるもの」「生活を助けてくれるもの」など、誰にでも役に立つハッピープログラムを作る。							
		「情報活用能力を身に付けよう」㊸ ・各教科との関連。観察・実験・作成した作品の記録など。タブレットを使用し、情報活用能力の基礎を身に付ける。 (正しい文字入力、写真や映像の撮影・編集、ファイルの保存・消去、インターネット上の情報の閲覧・検索)										
5年	教科道徳特活	道「あいさつって」★ コラム★『情報と向き合う』インターネット上のマナー ・インターネット上での礼儀について考える。			学活「携帯電話の使い方」(2) ・携帯電話やゲーム機などインターネットでの対応を学ぶ。	国「敬語」(2) ・日常よく使われる敬語を理解し使い慣れることができる。 【Scratch】				外「Where is the gym?」(8) ・道をたずねたり、答えたりする。 算「プログラミングのミ」(1) ・論理的思考力を使って、問題を解決する。	図「伝えたい思い」(5～8) ・場所に飾った作品の表現の意図や工夫についてプレゼンテーションする。	・キーボードなどによる文字の正確な入力(ローマ字) ・目的に応じたアプリケーションの選択と操作 ・情報を伝えるメディアの特徴 ・社会におけるコンピュータの活用 ・意図した処理を行うための適切なプログラムの作成、評価
		学活「PCタブレットの使い方と情報モラル」(1) ・PCタブレットの使い方について知る。							社「情報を生かすわたしたち」(4) ・情報を上手に活用するルールやマナーを知る。			
	総合的な学習の時間	・発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響について知る。				「豊かな生活とものづくり」㊹ (mBotの活用) ・社会科「わたしたちの生活と工業生産」との関連。社会科見学での自動車工場の見学を通して、便利な機能を備えた自動車が作れないか考える。mBotの使用で、センサーやプログラムの仕組みを知る。						
6年	教科道徳特活	学活「PCタブレットの使い方と情報モラル」(1) ・PCタブレットの使い方について知る。 ・発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響について知る。	家「朝食から健康な一日の生活を始めよう」(10) ・朝食の学習を生かし、健康な生活を送るために家庭で朝食の計画を立てよう。 【Scratch】		学活「携帯電話の使い方」(2) ・携帯電話やゲーム機などインターネットでの対応を学ぶ。	道「気に入らなかった写真」★コラム★ 『情報と向き合う』インターネット上の権利 ・情報の扱い方について考える。				算「プログラミングのグ」(1) ・論理的思考力を使って、問題を解決する。	理「発電と電気の利用」(13) ・センサーを使ったプログラミングを体験し、電気の働きを自動的に制御することによって、電気を効率よく使うことができることを理解する。 【Scratch・MESH】	
	総合的な学習の時間					「ピースプロジェクト」㊸(ロイロノートの活用) ・戦争や原爆について調べ、平和について考える。 ・広島で学んだことを5年生や保護者に伝える。			「サンキュープロジェクト」㊸ (ロイロノートの活用) ・お世話になった人に感謝の気持ちを伝える方法を考える。			
		「ロボットを動かそう」㊸ (mBotの活用) ・様々な場所で身近な生活でコンピュータが活用されていることや、問題の解決には必要な手順があることに気づく。 ・自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号をどのように組合せたらよいのか論理的に考えていく力をつける。										

緑色：プログラミング教育にかかわるもの 水色：総合的な学習の時間で扱う情報活用能力にかかわるもの 黄色：情報モラル教育にかかわるもの

令和4年度 琴芝っ子 授業改善計画

